



情報科学センター 10周年に寄せて

吉田 将¹

情報科学センター 10周年に際して、前身の計算機センター（後の情報処理施設）と工学部附属情報処理教育センターについても簡単に私的な裏面史を紹介させていただきます。

九工大に計算機が導入されたのが昭和 40 年度でした。買取りで価格 3,300 万円というのが当時の文部省の小型機予算でした（中型機は 8,600 万円）。機種選定委員会で各メーカーからの提案が検討されたようですが、意見が分かれていたようです。私には委員会の様子は知りようもありませんでしたが、ある時、井上順吉教授から「どこが良いか」と問われ、九大や東大のセンターで運用実績があり、プログラム開発その他の便宜も考え OKITAC が良いのではと進言し、そのとおりになりました。

昭和 48 年度には 4,500 万円で九大大型計算機センターと 2,400bps の専用回線で接続したデータステーションに更新されました。九大は F 社、九工大は O 社ということで、相互に接続することは今では考えられないほど困難を極め、九大と九工大が間に入って通信手順（プロトコル）の取り決めから行うという有様でした。

この更新に際しても、データステーションではなく中型機を導入するよう文部省に要求すべきだという強い学内意見があったようで、文部省から手塚晃研究助成課長が現地視察に来られるのでコンピュータの専門家として相手をして欲しいと佐々木事務局長に頼まれました。学長室で手塚課長から大型計算機センターとデータステーション設置の全国的な計画を聞き、中型機に固執するよりもデータステーション計画に積極的に加わった方が良いことを進言いたしました。この一件以後、手塚氏とは今に至るまで年賀状の交換をさせていただいています。

工学部附属情報処理教育センターが設置されたのは昭和 49 年度でした。昭和 40 年代半ばに文部省が一般情報処理教育に関する調査報告書を出したのと期を一にして、九工大でも全学生（1 年生）を対象に情報処理教育を開始しました。講師は私一人で、夏休みに入ってからすぐ 1 週間ほど午前午後連続で汗をかきかき、ALGOL や FORTRAN プログラミングを中心に講義しました。これが 2 年続いた後、こんなことを毎年続けていたのでは私の身も持たないし、長続きはしないと思い研究用の計算機センターとは別に教育用計算機センターの計画をまとめ昭和 48 年度概算要求として提出してもらいました。「一般情報処理教育センター」と銘打って概算要求したのは、九工大が初めてでした。この年、室蘭工大が教育研究用計算センターの要求を出していました。

¹九州芸術工科大学長

当時は研究用計算機は文部省の研究助成課、教育用は技術教育課(現専門教育課)で担当していた関係もあり両課で調整の結果、一般情報処理教育センターの要求に変更し九工大と歩調をそろえて大蔵省に概算要求されました。当時は(今は、さらに厳しくなっていますが)定員の要求は大変厳しく、教官定員としては助教授1名、助手1名ではどうかということでした。私は、助教授1名、助手2名以下では承服できないと主張しました。多分、これが原因でしょう、その年には実現せず、助手1名を受け入れた室蘭工大の方に設置されることになりました。しかし、翌49年度には助手2名の定員が認められ目出たく設置されることになりました。

センター建物(1500 m^2)の設計、一足先に完成していた情報工学科との位置関係などについては、情報関連学科やセンターに対する私なりの密かな将来構想(実現はしていませんが、今流に言えばマルチメディア教育開発センターなど)を盛り込ませてもらいました。研究用のコンピュータよりも教育用の方が大きいのは何故か、など学内のいろいろな疑問、質問に答える必要がありました。研究用のセンター(情報処理施設)と情報処理教育センターは別組織(したがって、運営委員会等も別)にしましたが、一体運営することにしました。

3年間センター長をやり、曲がりなりにも立ち上がった時点で昭和52年春から九州大学の方に移ることになりました。昭和61年4月から情報工学部設置準備室長として再度、九工大に勤務することになりました。この年の2月の中頃、文部省に挨拶がてら参りまして、関係部署で話をしました。この時の会話で私にとってショックだったのは、ある口の悪い課長補佐の一言でした。「お待ちしていました。先生が吉田先生ですか。よく引き受けましたね。日本で一番・・・の大学です。いや、×××大学がもう一つあるか。・・・ご苦労さんです。」その1ヶ月ぐらい後に再度、話しに行った折、さらにショックを受けました。情報科学センターと技術開発センター?そんな話は聞いていませんよ。お宅の大学が勝手にそう思っているだけでしょう。」私はすっかり落ち込んで別の課に行き、そのことを課長(現出雲市長)に話したところ、「先生、そんなことで世の中ひっくり返ったりしませんよ。もっと気を大きくもって下さいよ」と妙な激励を受けてしまいました。

結果はご承知のとおりで、今日10周年を迎えることができたわけです。内容は要約すると以下のとおり。

1. 情報科学センターは情報工学部の5学科が情報専門学科と位置付けられていることから1学科当たり270万円/月相当のレンタル料とする。(学年進行で措置)
2. 九工大全体の教育研究用センターとしての機能も有する。そのためのレンタル料は、900万円/月とする。また、キャンパスの情報化にも積極的に関わる。
3. 情報科学セミナーなど社会に開かれた教育の場を提供する。そのための建物面積等は資格外で措置する。

その後、レンタル料等には変更があったかもしれませんが、九州工業大学情報科学センターのもつ多様な役割に留意して、両学部から愛されるセンターであり続けてほしいと思います。

以下に、センター関連で是非知っておいていただきたい事項をあげておきます。

- 昭和48年度： 2400b/s 全2重位相変調方式で異メーカー(九大F社, 九工大O社)間データステーション運用開始(設計は九大・九工大, F, O社共同)全国初.
- 昭和50年度： 工学部附属情報処理教育センターシステムにIBM370-20, 同3270ディスプレイシステムを採用. 教育用ディスプレイ入力システムを教育センターで開発.
- 昭和50年度： 情報処理教育センター深夜運転開始. 夜間操作員として, 学生の非常勤職員を採用. 利用者に対するチューターの役割も果たした.
- 昭和51年度： この年度から始められた文部省の教育方法等改善経費交付対象として, 情報処理教育センターのプロジェクトが採択された.
- 昭和63年度： 第1回情報処理教育研究集会が文部省の要請を受け九工大を世話大学として飯塚市において開催された.
- 平成3年度： 情報技術セミナー等, 社会人教育に対する取組みが認められ, 経団連が中心となり設立された「先端技術者育成トラスト」の第1回助成対象に選ばれる.